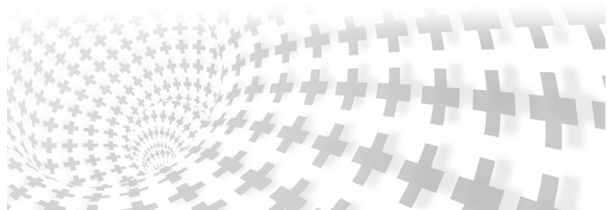


こんにちは



湘南ヘルスイノベーションパークを訪ねて

〈はじめに〉

異例尽くしの2020年も年の瀬が迫り、この時期には珍しい大寒波が襲来した12月17日の朝、筆者らは神奈川県藤沢市にある湘南ヘルスイノベーションパークを訪れた(写真1)。今回の訪問を担当して下さったの



写真1 研究施設外観



写真2 広報の滝澤恵子さんとクリスマスツリーの前で(中央:滝澤さん, 左:東海林, 右:菅)

は広報担当の滝澤恵子さんである(写真2)。湘南ヘルスイノベーションパーク(通称湘南アイパーク)とは、武田薬品工業株式会社の湘南研究所として2011年に建設された施設を開放して、2018年4月に設立された、企業発のサイエンスパークである。JR東海道線の藤沢駅あるいはJR横須賀線/東海道線の大船駅からバスで15分ほどの、都心からもアクセスの良い立地にある。5棟の研究棟がJR東海道線沿いに整然とそびえる様子を電車から目にしたことがある方もいらっしゃるかもしれない。

〈湘南アイパークとは〉

湘南アイパークは、製薬企業をはじめ、次世代医療、AI、ベンチャーキャピタル、行政など幅広い業種や規模の産官学が結集している複合研究施設である。ベンチャーやアカデミアが持つ革新的なアイデアを患者に届く形に実用化するために産官学が連携する場(エコシステム)を形成し、ヘルスイノベーションを加速する場となることを目指している。

ファシリティとして、床面積約30万平米という日本最大級の研究施設に生化学・合成実験エリアおよびRI実験エリアが多数整備されている。実験室もオフィスも、来室した研究者がそのまま研究に専念できるように整備されている(写真3,4)。実験室には、共有実験機



写真3 機能的なオープンオフィス



写真4 ゆったりとしたオープンラボ

器としてドラフト、安全キャビネット、遠心機などの汎用機器から、リアルタイム PCR、フローサイトメーター、共焦点レーザー顕微鏡などまでが設置され、すぐに使える状態に整備されている。大型分析装置類は共用であり、メンテナンスは外注しているとのことだった。なお、各実験棟は10階建て相当であるが、各実験室の上下部は1階分の高さのISS（インターステイシャル・スペース）となっており、設備の保守や更新がしやすいように入念に設計されている。

〈利用形態〉

湘南アイパークには、テナント入居とメンバーシップ登録という二つの参加形態がある。テナントとは、湘南アイパーク内に専用オフィスと研究室を構え、まさに湘南アイパークに「入居」する制度である。メンバーシップとは、占有スペースを持たない参加形態である。2021年4月15日にこの制度は改定され、オープンオフィスを含むオンサイト/オンラインコミュニティをフルに利用できるメニューから、限定されたイベントや情報にのみアクセスできるメニューまで、法人あるいは個人向けの四つのメニューが準備された。2020年12月の訪問時点では、テナントは79企業、メンバーシップは31企業にのぼり、入居人数は約2000人を数えた(なお、2021年6月時点では、テナント88企業、メンバーシップ33企業、入居人数は2100人を超えている)。テナント、メンバーシップの企業一覧を見ると、製薬、創薬、次世代医療の分野はもとより、研究開発支援、研究/医療機器、AI、さらにビジネスサポートや行政、保険、商社までが並ぶ。この多岐にわたる分野の専門家たちが、湘南アイパークのマネジメントにより日々密なコミュニケーションを取り、イノベーションの創成に動んでいるのだと想像すると、そこに非常に高い活性をもつエコシステムが形成され息づいているのを感じた。

〈特色〉

この研究施設の一番の“売り”について尋ねると、日本最大級の研究施設であるとともに、企業間の密なコミュニケーションの場と機会を提供していることだという答えが返ってきた。実際に、テナント企業の代表者数名が「入居してよかったこと」として、このコミュニケーションの機会の豊富さを挙げている。創薬の世界は、その性質上、どちらかというと「秘密主義」「閉塞的」になりがちである。さらに、起業したばかりのベンチャーであれば、各分野のプロたちとの議論の機会は簡単には得ることができない。ベンチャーはある一つの抜きでた技術のみを頼りにして起業することが多いが、その技術は他の技術とのマッチング如何で、単体どうしの足し算以上の成果につながることもある。つまり、ベンチャー発の優れた技術が医療サービスの中で結実するかどうか

は、コミュニケーションの機会に依存している。湘南アイパークでは、ベンチャー企業が様々な強みを持つ多くの企業と直接コミュニケーションを持つ機会が提供されている。気負わない対話により、インターネットでは検索されない最新情報を手に入れられることもあり、入居するベンチャー企業にとって大きな魅力となっているようだ。2020年はコロナ禍の影響でリアルイベントの多くが残念ながら見送りとなった。そのためオンラインでのコミュニケーションを拡充し、オンラインイベントの開催や企業紹介コンテンツの提供に努めているとのことだった。

弁護士、公認会計士、弁理士らによる、研究者が不得手としがちな分野への相談サービスもあり、このサポートも活用されているようだった。

興味深いのは、インキュベーション事業として、大学やベンチャーへ事業化に向けた資金・設備・ノウハウ提供をしていることだ。これにはクラウドファンディング型と企業協賛型とがあり、すでに前者で二つ、後者で一つのプロジェクトが成立している。成立したプロジェクトには湘南アイパークの設備やサービスを利用する権利が与えられるとのことだった。新規プロジェクトを着実に育てて花開かせるためのシステムとなっているのだろう。

〈気づいたこと〉

今回見学させていただいて気づいたのは、打ち合わせスペースと憩いのスペースの多さである。湘南アイパークは、5棟の研究棟が端から端まで、長さ約430メートルのブロードウェイと呼ばれる廊下で貫かれた構造となっている。そのブロードウェイ沿いには会議室や多目的室“ノマド”が並び、さらにテーブルとソファのセットも点在していた。それに加えて、ブロードウェイには各階に憩いのスペースとして“キャンプ”や“ビーチ”といったテーマに基づく休憩スペースが設けられており、寛ぎつつ会話や議論を楽しむこともできそうだった(写真5)。



写真5 憩いのスペース“キャンプ”の一隅で

湘南アイパーク内には生活のための施設も各種そろっている。カフェテリア、バー、コンビニ、ジムに加え、研究棟内に託児所が設けられているのには目を見張った（託児所は別途契約している一部の企業の社員のみ利用可能）。

〈地域とのかかわり〉

昭和 38 年に湘南アイパークの前身である武田薬品工業の湘南工場ができて以来、この地では研究機関と近隣住民とが共生してきた。湘南アイパーク設立に際して、周囲の道路や歩道の整備を行い、現在では市民に向けた親子科学教室や季節ごとのお祭りイベントなどを開催しているそうだ（2020 年はコロナ禍により中止）。現在、湘南アイパークのグラウンドには新型コロナ感染症の中等症患者受け入れ用の仮設医療施設が設置されている。これは、隣接する湘南鎌倉総合病院が「神奈川モデル」における重点医療機関に指定されたことを受け、同病院の仮設医療施設建設のために、神奈川県から湘南アイパークのグラウンド貸与を要請されたことによる。高度な最先端の研究開発にとどまらず、このような医療後援

にもかかわっていることに、近隣地域との共生という理念の体現を感じられた。

〈おわりに〉

取材が終わって建屋を出ると、底冷えの朝はまぶしい冬晴れとなっていた。エントランスの正面には野球ができそうな広いローンが広がり、その奥で 10 数人の子供たちが屈託のない歓声を上げて走り回っている。託児所の子供たちだった。若手から中堅研究者は子育て世代であり、介護世代とも重なり始める。研究開発を後押しするためには、ラボやオフィスの充実やコミュニケーションの促進に加え、育児や介護といった研究員の人生プランへの支援も重要だ。このような支援こそが世界レベルの研究開発を牽引する下地となるのだろう。

最後に、今回の見学を快く引き受けてくださった湘南ヘルスイノベーションパークと、丁寧な解説をしてくださった滝澤恵子さんにこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

〔国立研究開発法人海洋研究開発機構 菅 寿美〕
東京薬科大学薬学部 東海林 敦



原 稿 募 集

ロータリー欄の原稿を募集しています

内 容

談話室：分析化学、分析方法・技術、本会事業（会誌、各種会合など）に関する提案、意見、質問などを自由な立場で記述したもの。

インフォメーション：支部関係行事、研究懇談会、国際会議、分析化学に関連する各種会合の報告、分析化学に関するニュースなどを簡潔にまとめたもの。

掲示板：分析化学に関連する他学協会、国公立機関の主催する講習会、シンポジウムなどの予告・お知らせを要約したもの。

執筆上の注意

1) 原稿量は 1200～2400 字（但し、掲示板は

400 字）とします。2) 図・文献は、原則として使用しないでください。3) 表は、必要最小限にとどめてください。4) インフォメーションは要点のみを記述してください。5) 談話室は、自由投稿欄ですので、積極的発言を大いに歓迎します。

◇採用の可否は編集委員会にご一任ください。原稿の送付および問い合わせは下記へお願いします。

〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2
五反田サンハイツ 304 号
(公社)日本分析化学会「ぶんせき」編集委員会
〔E-mail : bunseki@jsac.or.jp〕